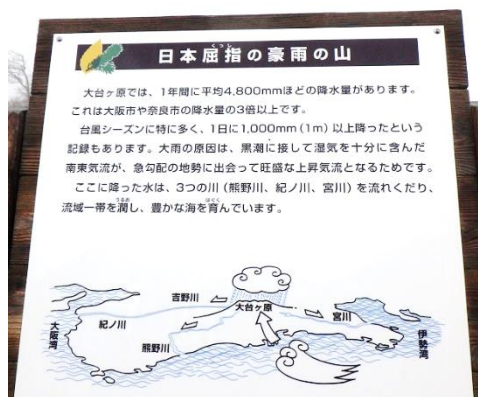


◆紀伊山地 大台ヶ原山 (1695m)

三重県と奈良県の県境に位置し、降雨量日本一と言われている。山頂の日出ヶ岳付近にあった看板には、年平均 4800mm との記述があった。このピークは和歌山市に流れる吉野川（紀の川）、新宮市に流れる熊野川、伊勢市に流れる宮川の源流となっている。とにかく谷が深く山深い印象で、紀伊山地の険しさが感じられた。（1400 万年前に起こったカルデラ噴火によって西日本は山国へと変貌。）



大峰山 (1915m)

近畿地方の最高峰である。こちらも奥深い山である。大峰山脈の主稜線には奥馳道（おくがけみち）と呼ばれる修験者の道が続いていて、登山道にも宗教的な名称の場所が現れる。今も行者が吉野から熊野へ、奥馳と称される縦走による修行を行っている。雨中の登山中、偶然にも本物の山伏に出会うことができた。気軽に撮影にも応じてくれた。

◆南紀熊野ジオパークでブラタモリ

上記の 2 つの日本百名山を登った後、NHK の「ブラタモリ」で訪れていた「那智の滝」と「橋杭岩」に行き、熊野カルデラの一部を巡検してきた。

那智の滝 (落差 133m)

那智熊野大社の別宮・飛瀧神社の御神体の那智の滝。その圧巻の迫力には息をのむ。滝の背景をなす岩はマグマが固まってできた浸食されにくい流紋岩を含む岩盤。手前の地層は、砂岩や泥岩の浸食されやすい岩盤で、その境目にこの滝が形成された。1400 万年前に起こったカルデラ噴火の外輪山に当たるらしい。



くしもと橋杭岩(はしくいいわ)

本州最南端の串本町にある「橋杭岩」。幅 15m、長さ 900m にわたり、橋脚のような岩が直線状に並んでいる。これは、地下から上昇したマグマが泥岩の層に入り込んで固まった後、浸食されやすい泥岩層が波により削られて形成されたとのこと。これも 1400 万年前の火山活動によって形成されたもの。



このような景観は僕も初めての経験でちょっと興奮。ちょうど干潮の時間帯だったのか、多くの観光客が岩の近くまで足を延ばしていた。近くにフェニックスも生えていて、ついでに種をゲット。